

1.研修プログラムの名称

臨床検査医学科研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

日本の臨床検査医学講座の中で、診療科として専有の外来、病棟を持つ唯一の教室である。臨床検査の中で特に血液凝固学を専門としていた歴史から、血液凝固異常症の患者を診察する診療科として発展してきた。現在では血液感染症である HIV の診療も平行して行っており、HIV 診療においても基幹病院となっている。

研修を通して一般内科医としての基本的知識、技能を修得でき、これを土台として専門領域の能力が身につく。専門領域は血液、感染症が中心なので、全身管理についての知識や技術が要求され、一般内科医としての能力が向上する。発展途上の疾患や希少疾患も多く、症例をじっくり検討しながら診断、治療などの能力を高めることが可能である。

当科では特にコメディカル・スタッフ（薬剤師、臨床心理士、MSW など）との連携による包括的医療を行っているので、いろいろな意見に接することができ、患者に対する共感的理解という、これからの医師にとって重視される基本的な診療態度を習得することができる。

臨床検査医学科ホームページ

<http://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/shinryo/rinsho/index.html>

<http://team.tokyo-med.ac.jp/rinsho/>

3.一般目標

全ての臨床医に求められる基本的な診療に必要な知識・技能・態度を身に付ける。医療行為における臨床検査の役割を理解し、臨床検査医学の基本とその応用方法を身につける。病棟、外来業務を通して内科系臨床医に求められる基本的な日常診療に必要な知識、技能、態度を身につける。他の医療従事者と十分なコミュニケーションをとりながら診療にあたることを怠らない。患者および家族との間に望ましいコミュニケーションを速やかに形成し、より良い人間関係を確立しようとする態度を身につける。診療に必要な診断、治療法の内容と結果、それらの副作用、不利益を含めて、患者とその家族に共感的な態度で説明、指導することができる。

4.具体的目標

1) 経験すべき診察法・検査・手技

1. 全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む）ができ、記載できる
2. 一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む）の適応が判断でき、結果の解釈ができる
3. 便検査（潜血、虫卵）の適応が判断でき、結果の解釈ができる
4. 血算・白血球分画の適応が判断でき、結果の解釈ができる
5. 血液生化学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる・簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）
6. 血液免疫血清学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる（免疫細胞検査、アレルギー検査を含む）
7. 細菌学的検査・薬剤感受性検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる・検体の採取（痰、尿、血液など）・簡単な細菌学的検査（グラム染色など）
8. 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保）を実施できる
9. 採血法（静脈血、動脈血）を実施できる

2) 経験すべき症状・病態・疾患

10. 全身倦怠感を診察し治療に参加できる
11. リンパ節腫脹を診察し治療に参加できる
12. 発熱を診察し治療に参加できる
13. 頭痛を診察し治療に参加できる
14. 出血傾向・紫斑病（播種性血管内凝固症候群：DIC）を診察し、治療に参加できる

15. 静脈・リンパ管疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫）を診察し、治療に参加できる
16. 呼吸器感染症（急性上気道炎、気管支炎、肺炎）を診察し、治療に参加できる
17. 肝疾患（ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害）を診察し、治療に参加できる
18. ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎）を診察し、治療に参加できる
19. 細菌感染症（ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア）を診察し、治療に参加できる
20. 性感染症を診察し、治療に参加できる
- 3) 特定の医療現場の経験
21. 予防医療の場において、性感染症予防を指導できる
- 4) 全科共通項目
22. 診療録（退院サマリーを含む）をPOSに従って記載し管理できる
23. 処方箋、指示箋を作成し管理できる
24. 診断書、死体検案書、紹介状、その他の証明書を作成し管理できる
25. 25.保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる

5.指導体制・方略

病棟においては、指導医とともにグループを構成し診療科長、病棟医長の指導の下に診療を行う。実際の指導には、より直接的な指導医としての助教以上が当たる。外来においては、指導医の初診あるいは専門外来に陪席し、症例ごとに指導を受ける。

最終の症例検討会日に、パワーポイントを用いた15分程度のプレゼンテーションを行う。また、ラウンド期間中に症例レポート1つを作成し、指導医のアドバイスを受ける。

6.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
AM	病棟回診	病棟回診	病棟回診 新宿東口クリ ニック見学(1 回/月)	病棟回診	病棟回診 教授外来 陪席(1回/月)	病棟回診
PM	病棟回診 症例検討会,教 授回診,医局会 (スタッフミーテ ィング:1回/月)	病棟回診	病棟回診 中野保健所(1 回/月)	病棟回診	病棟回診	

外来見学は状況に応じて追加している。

新宿東口クリニック見学(感染症 青木眞先生)、中野保健所 HIV 検査・結果説明見学を1回ずつ行う。

研修医向けレクチャー

ローテーション中に以下のクルズを受講することができる。

1. HIV感染症（抗HIV療法・日和見感染症など）
2. 凝固異常（血友病、vWD、DICなど）
3. 輸血（血液型、輸血副作用、不規則性抗体血液型、自己血輸血など）

7.研修活動

8.評価

1) 自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する

EPOC を用いて自己評価を行う

研修事後レポートを用いて自己評価を行う

2) 指導医による評価

EPOC を用いて評価する

研修事後レポートより評価する

他者評価表を用いて評価する

研修終了時に試験を行い、振り返りをおこなう

3) コメディカルによる評価

EPOC 又は評価表を用いて評価する

他者評価表を用いて評価する

4) 研修医による評価

EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する

評価表を用いて指導医並びにコメディカルを評価する

9.その他特記事項

症例検討会では症例の提示と検査、治療計画の報告と確認を、抄読会(感染症科と合同)では文献の紹介と解説、EBM の重要性の確認を行っている。

また、院内関連診療科や各部署との連携が特徴であり、月 1 回、関連各科、薬剤師、MSW、外来および病棟看護師、臨床心理士、医事課など、枠を越えた横断的なスタッフミーティングを行っている。ここでは HIV 診療において疾患だけでなく、患者の社会的背景に目を向けるよい機会にもなっている。